

氏名	中村あや
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 5080 号
学位授与の日付	平成27年 3月25日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目	Dose-response analysis of testosterone replacement therapy in patients with female to male gender identity disorder (性同一性障害患者(female to male)に対するテストステロン補充量の検討)
--------	--

論文審査委員	教授 平松祐司 教授 大塚文男 教授 難波祐三郎
--------	--------------------------

学位論文内容の要旨

性同一性障害(GID)とは、生物学上の性と、自覚する性が一致しない障害である。テストステロンは、female to male transsexual (TS)患者にとって、重要な物質である。我々は、テストステロン補充療法(TRT)を138人 female to male TS患者に対して行い、投与量による治療効果の出現時期について解析を行った。TRTはエナント酸テストステロンを筋肉内注射で行い、投与量及び間隔を250mgを2週間毎、250mgを3週間毎、125mgを2週間毎の3グループに分けた。低声化、髭の増加、月経の停止時期について、各グループにつき解析を行った。TRT開始後1か月では、補充量が多いグループの方が、身体変化が認められる割合が大きかった。一方、6か月後にはほとんどの患者に治療効果が認められ、3グループ間で違いは認めなかった。目立った副作用はどのグループでも認められなかった。TRTの効果発現時期は容量依存性であるものの、6か月後には3グループのどの投与量でも十分な効果があることが証明された。この研究でTRT開始時の投与量及び長期TRTにおける継続投与量を決める有益な情報を与えることが出来た。

論文審査結果の要旨

本研究は性同一性障害(GID)のfemale to male(FTM)患者に対するテストステロン補充療法(TRT)の効果および副作用について研究した論文である。

テストステロン投与を、①250mgを2週毎、②250mgを3週毎、③125mgを2週毎の3群で検討し、TRT開始後1ヵ月では、投与量の多い群で低声化、髭の増加、月経停止などの効果発現が著明であったが、6ヵ月後には3群で差がないことを報告している。また、副作用は3群間で差を認めていない。

患者治療においては、出来るだけ少量投与で副作用の無い方法が求められるが、本研究において、TRT開始時の用量、長期連続投与時の用量につき、重要な知見を報告しており、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。